

駐米日本大使 佐々江賢一郎

the Japanese Ambassador
to the U.S.

His Excellency Kenichirou Sasae



この度は、JAAGA 創立20周年の節目を迎えられますことを、心よりお祝い申し上げます。

外薗前会長をはじめとするJAAGA 訪米団ご一行は、毎年ワシントン D.C.を訪問され、活発に活動されております。航空自衛隊と米空軍の両幹部は長年に亘り強力な同志関係を有しており、これは日米同盟の深化を支える上でも重要な役割を果たしてきました。



His Excellency Kenichirou Sasae(center)
at the Residence of Gen. Eberhart

昨今は日本が置かれている安全保障環境を背景に、日米同盟の重要性が急速に増えています。昨年は戦後70周年を迎える中、日米ガイドラインが改訂され、新たな安保法制が成立したことで、日米同盟は一層と強化されました。

このような揺るぎない日米同盟の発展を支えてきたのは、国防の現場を預かる自衛官と米軍人同士の厚い信頼関係の存在に他なりません。日本には沖縄をはじめ常に約5万5千人の米軍人が駐留し、その家族や軍属を含めると実に10万人を超える米軍関係者が日本で生活しています。日米同盟の土台となる彼らを支えるJAAGAの活動が、今後も両国の信頼関係を深め、日米同盟の更なる発展に寄与し続けることを確信しています。

在米国日本大使館においても、退役、現役を問わず、数多くの米軍将官に様々なレセプションやイベントに参加頂き、良好な関係構築を行ってきました。特に昨年春には、在日米軍経験者とその家族を含めたネットワーク強化を図るためのプログラム「JUMP(Japan U.S. Military Program)」を立ち上げ、全米各地でのイベントやレセプション、ソーシャルメディアを通じて広報活動を行い、在日米軍関係者との幅広い交流を図っています。

今年は米国にて、空自向け F-35A を受領するほか、今後も、新空中給油輸送機 KC-46A や滞空型無人機グローバルホークなど、米空軍と共通の装備品の導入が予定されています。これまで培われてきた日米両空軍種間の人と人との固い絆が、これら新しい装備の導入と相まって、我が国の平和と安全と繁栄のための空の守りの大きな力となることを期待しています。

航空自衛隊准曹士先任 准空尉 山崎勝巳

Senior Enlisted Adviser
of JASDF

W.O. Katsumi Yamazaki



日米エアフォース友好協会(JAAGA)の創立20周年、誠にありがとうございます。

こうして記念の日を迎えられたのも、会員の皆様のご努力があってこそのことと存じ上げます。日々、歴史と実績を積み上げていること、改めて実感しております。また、准曹士隊員への激励や支援等数多くのお力添えを賜っており、全准曹士隊員を代表しまして心より御礼申し上げます。

さて、この場をお借りしてご報告させていただきたいことがあります。この度、米空軍最先任上級曹長と航空自衛隊准曹士先任による「レッド・フラッグ・アラスカ」の日米共同部隊視察を実現する運びとなりました。在日米空軍最先任上級曹長が私のエスコートとして日本から同行し、太平洋空軍最先任上級曹長と第11空軍最先任上級曹長が現地を案内するものであります。これまでも在日米空軍と航空自衛隊の交流が盛んに行われているところではありますが、「今一步踏み込んだ交流」、「真の交流」とは何か、と悩んでいたところ、航空幕僚長をはじめ関係部署の協力、そして何よりも貴協会の御尽力があってこそこの成果であると確信しております。ありがとうございました。「下士官の下士官による下士官のための日米共同視察」は、歴史的に見ても新たなステージへの第1歩を踏み出すものであり、世界に発信するメッセージ性も高いものと思われまます。今後とも、日米同盟の架け橋としてのお力添えを、よろしくお願い致します。

創立20周年を一つの節目として貴協会の功績を思い、革新的な取り組みに改めて感服いたします。これからも、貴協会のさらなるご発展と会員皆様のご健勝をご祈念申し上げまして、日米エアフォース友好協会(JAAGA)創立20周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

(航空自衛隊准曹士先任と米空軍最先任上級曹長との交流について、4_資料 において特集を掲載)



Senior Enlisted Adviser of JASDF W.O. Katsumi Yamazaki
together with Chief Master Sergeant of AF James A. Cody
at Joint Base Elmendorf